

【出題の趣旨】

セクシュアル・ハラスメント（以下「セクハラ」という）を定義することの難しさを考えてもらう問題である。単に「外形標準への適合と相手方の拒絶のみで判定される行為」なのか、それとも「内心の状態（たとえば嫌悪感）を合わせて検討すべき行為」なのかといったところに焦点が当たることを期待するが、解答者の着眼点と思考の展開が分かりやすく説明されていれば、それなりに評価する。権威ある団体等のセクハラの定義を知っていることは求めない。

問1 玲子はそもそも新之助に対してどのような感情を抱いていたのか。このことについて思いを巡らせれば、行為と内心は必ずしも適合しないことに気づくはずである。

まず、新之助は玲子に不快な思いをさせてきたのであるから、いたたまれなくなって辞めていく彼女に謝罪の意を表すべきだという理解があり得る。手を振るという行為が謝罪の手段として相応しいかどうかは問題であるが、臨機の対応としては考えられなくもない。先輩である室長は、咄嗟にそのように判断して助言したのであろう。このように理解した解答者はおそらく、デートの誘いを拒絶する発言、懇親会の帰路で腕を振りほどいた行為は玲子が新之助に好意を抱いていないことの証左と捉えているものと思われる。

他方で、玲子はもっと熱烈な求愛を期待していたのではないかという読み方もできる。新之助がフランスのレストランで窓外の少女の笑みを見逃さなかったという記述と、図書室で玲子の顔を正視しなかったことを悔いているかの如き独白は呼応する。懇親会の後、身体が触れ合っている間に玲子は何を考えていたのか。そのような流れで読めば、室長の言葉には、他の男性との縁談がまとまって職場を去っていく玲子に一瞬の訣別の機会をあげてはどうかという示唆が感じられてくる。そして、新之助は、そのことを後に悟ったのである。

ほかにも読み方があるかもしれないが、ともかく首尾よく記載されていれば、それなりに評価する。

問2 まず「デートしようよ」という発言であるが、相手方が拒絶している以上はセクハラに該当するという解答があり得る。しかし、玲子の拒絶は新之助の誘いに反応したものであり、新之助の方では、拒絶されることがあらかじめ分かっていたわけではない。それにもかかわらず結果的に拒絶されたことによってセクハラと認定されてしまうのでは、恋愛は諦めろと言われているのに等しい。当然そのような不満が表明されるはずである。また、セクハラが成立するには、相手方に嫌悪感を催させる程度のしつこさがあつてしかるべきだというような主張が展開されるであろう。フランスの女優たちが唱えた「女性に言い寄る自由」は、このような思考を導くヒントになる。他方で、たとえ2人だけになったとはいえ、図書

室という研究目的の場所で声をかけたことを非難する意見が出てくることも予想される。

では、懇親会の後に相手方の腕の下に手を差し入れた行為はどうか。これは、身体の接触を伴う点で「デートしようよ」の発言とは異なる。また、大学外での行為である点にも注意しなければならないが、懇親会の後であるから、大学という空間を引きずっていると見ることもできる。他方、玲子の反応であるが、これで2度に亘って拒絶の態度をとったことになる。ただし、新之助が懇親会の日の前に体験した拒絶は、「ダメ。忙しい」の1回のみである。セクハラをあくまで外観から把握しようとするれば、そうした細部にこだわった検討が必要である。行為の相手方の心情を重視するなら、行為の回数といった外面に止まることなく、相手方の心の内を探る丁寧な考察が求められる。

【出題の趣旨】

スマホが人々の生活に多大の便宜を与えていることは認めなければならないが、はたして社会生活に負の効果を及ぼすことはないのか。このことについて考えてもらいたいという趣旨の問題である。

問1 まず、下線部(1)の文章の「これ」がスマホを指すことに気づいてほしい。この「これ」は、第二段落において、青ジャンパー氏が「誰もかれもこれなんですよ」と発言したときの「これ」に対応する。この関連を発見した解答者であれば、新之助がスマホに負の側面を認めているのを読み取ることは容易であろう。問題は「切り離されて」という表現がどういうことを意味するかであるが、ここは若干解答者の想像力を要する。ヒントになるのは、次の段落の「自分だって年輩の人を前にして座って本を読んでいたじゃないか・・・」という部分である。スマホを繰る行為と本を読む行為に何か同質性があるかと考えれば、それはやはり自分の好きなことに集中する行為だということに思い至るであろう。自分の好きなことに集中すれば、周りとの関係が感じられなくなり、結果として周りに配慮する責務を回避できてしまう。もともと現代はとくに都市部において老人に対する気配りの習慣が薄らいできているが、スマホ社会になって人々が周りを見なくなれば、一層その傾向が強まるであろう。青ジャンパー氏もそう考えていたと思われるが、新之助はそれを自分なりの一言で説明したのである。

問2 新之助は朝のバスで前に年輩者が立っているのに席を譲らなかったのであるが、その理由としては、自分も還暦を過ぎていて、昔なら老人の部類に入っているという思いがある。しかし、それ以上に重要なのは、もう通勤スタイルの人がそれほど見られない時間帯なのにバスが満席になっているという事実である。おそらく新之助は高齢者率の高い地域に暮らしているのであろう。老人に席を譲るのがマナーであることは分かっているが、周りが高齢の人たちばかりで、自分は全く座れないことになってしまうのではないかと、自分は疲れているのだから、それは困るよ。新之助はそう思ったのである。

【出題の趣旨】

母の日にカーネーションを渡すという習慣を素材として、実際には異なる境遇にある者を等しく扱うことの難しさを考えてもらう問題である。

問1 一つには、母親の息子に対する愛情はたいへん深いものであり、それは世界中どこでも変わらないのであるから、母性を強調することによって、息子たちが戦場で傷つけあうことの愚かさを悟らしめ、世界を平和に導くという理念が浮かぶ。同時に、母の地位、ひいては女性の地位を高めるという意図があったとも考えられる。

問2 もともとアメリカの女の子がお母さんの葬式に際してお母さんの好きだった白いカーネーションを捧げたのが事の始まりであるから、日本の学校における行事としても、お母さんのいない子に白いカーネーションを渡すのは原点に戻る行為だとも言える。ただ、ほかの生徒たちは赤いカーネーションを貰っているので、父兄等から苦情があった場合には、その取扱いの違いを説明しなければならない。母のない子に白いカーネーションを渡すことは、自分には母がいないのだという哀しみを子ども心に増幅させるので、学校当局による差別に当たるという意見が父兄から出てくることが予想される。新之助は一応その点を心配したのであろう。しかし、カーネーションを2色用意するのは、異なる境遇にある者をそれぞれに相応しい方法で扱うためだという説明も成り立つ。新之助は基本的にはそのように考えているものと推測される。

【出題の趣旨】

1 本文章は、社会的にも注目を集めた北海道の方言である「そだねー」（カーリング女子日本代表チームの発言）について、その方言が社会的に話題となり人気を得た社会的・時代的背景を探り、現代社会に肯定的に受け入れられた理由について考察したものである。

2 （問1）は、正確な読解力を判定することをねらいとした問題である。下線部の指摘するところは、その後続く部分に具体的に示されているが、その内容を正確に、しかも制限字数内に要領よくまとめることが期待されている。

3 （問2）は、設問に示された「方言」に対する否定的な見解について、肯定あるいは否定のいずれかの見解の披歴を求めるものである。肯定的見解であるか、否定的見解であるかは、評価上の差異は生じない。いずれの見解に立つとしても、その見解を支持する具体的な根拠を示し、説得的な論述をすることが求められる。また、論述自体が首尾一貫したものであることが特に重視される。

【出題の趣旨】

本問題の文章は、大都市で社会慣行となっている、エスカレーターの片側を歩く人のために空けておくことについて、新たな解決策等を考察するエッセイの全文である。

設問1は、上記文章の正確な読解力を試すための設問である。上記文章にはさまざまなエピソードや、筆者の感想、考察がでてくる。しかし、解答者には文章の細部にとらわれることなく、筆者の主張の核心となる部分を指摘することが期待されている。

設問2は、上記社会慣行の当否自体について、上記文章の内容をも参考にして解答者個人の見解を述べることを求めている。単なる個人的な感想を述べるのではなくて、自己の見解を、自己と異なる見解を意識しながら、具体的な根拠をあげつつ、説得的に披歴することが期待されている。その際、自己の主張が一貫性のあるものとして矛盾なく構成されることが重要である。